

|| せみの こえ

ミーン ミーン ミーン。

みどりこうえんから、せみ

の げんきな なきごえが、

きこえて きました。ゆかちゃんは、せみの こえを

きくと 「なつだなあ。」と わくわくして きます。

けれども、^{おお}大きな こえで ないて いるので、ときど

き 「うるさいなあ。」と おもう ときも あります。



ゆかちゃんが たのしみに まっていた なつやすみが はじまりました。ゆかちゃんは、まいあさ こうえんへ 行って、おとうさんと いっしょに ^{らじお}ラジオたいそうを して います。ある日 ^ひの あさ、木 ^きの みきの あちこちに ちやいろい ものが、くつついて いるのを みつけました。

「ゆか。これは せみの ぬけがらだよ。」
と、おとうさんが、おしえて くれました。

よく みると、ちやいろい ^め目や あしの かたたちが

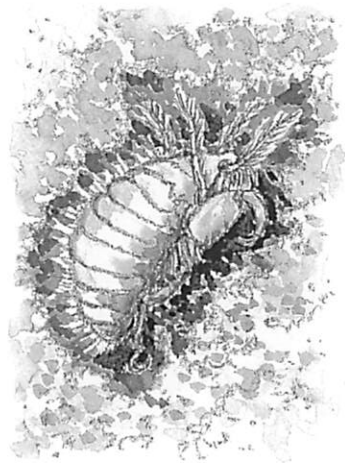


みえます。せなかも われて います。

おとうさんが、せみの へんしんの はなしを して
くれました。

おやの せみは、なつの あいだに 木きに たまごを
うみつけて しんで しまうそうです。たまごから
かえった ようちゅうは、ながい あいだ じめんの
中なかで くらすそうです。

せみは、だいたい 七なな年ねんぐらい
土つちの中なかで いると いうので
びっくり しました。



だって、ゆかちゃんか うまれた ときに じめんに
もぐった ようちゅうが、やっと いま
おとなの せみに なるのです。

じめんから でて きた せみは、
木の えだや はに つかまって
かたい かわを ぬいで、おとなに



なります。でて きた ばかりの はねは、くしゃく
しゃに なって います。からだも かたまって いな
いので、すぐには とべません。おおごえで なけるよ
うに なるには 四よっか日かぐらい かかるそうです。

おとうさんの はなしを きいて、ゆかちゃんは、
せみの いのちの ことを かんがえました。まっくら
な 土つちの 中なかで、ながい あいだ しんぼうして、やっ
と あかるい そとへ でて きたのです。せみは、
まいにち どんな きもちで なくて いるのでしょ
ゆかちゃんは、こころの 中なかで 「うるさいなあ
とおもって ごめんなさい。」と いいました。

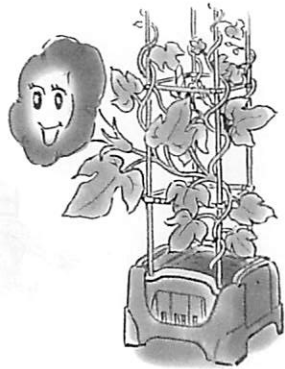
つぎの 日ひも、げんきな せみの こえが きこえて
きました。ゆかちゃんは、せみが よろこんで なくて
いるように おもいました。

12 あさがおさんの みに なって

がっこうの 花かだんの 中なかから
ひまわりくんが、

「あさがおさんは いいな。よしお
さんが せわを しに きて

くれて うらやましいな。」
と、となりの うえ木きばちの あさ
がおさんに いつも いました。



11 せみの こえ

3-(1) 生きることを喜び、生命を大切にすることを。 (生命尊重)

①主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

生命を大切にすることとは、人間を含めて、すべての動植物の生命を大切にすることになる。ところが、殺伐としたニュース等が流れるこの現代社会において、生命を傷つけられている動植物を見たときに心から「かわいそうだなあ。」と感じる子どもが、数少なくなくなってきているように思われる。

そこで、自分の命を大切にするだけでなく、他人の生命、そして他の命あるものを大切にすることは低学年の頃からしっかりと育てていくことがとても大事だと考える。

〈子どもの実態について〉

子どもたちは、自分の身近にいる動物等には興味関心がある。特に小動物や昆虫が好きである。

しかし、どのような生態であるか、どうやって育てたらよいかということは、あまり知らない。特に昆虫の羽化など見たことない子が多く、成虫になった形しかわからない。生命の不

思議さや神秘性にふれることで、命のすばらしさを感じてもらいたい。

〈資料について〉

せみの元気な声が聞こえる公園で、夏休みのラジオ体操をしているゆかちゃん。ある日、お父さんとせみの抜けがらを見つけたことで、せみについての話をお父さんから、教えてもらう。

土の中で何年も幼虫のままで暮らし、木にのほり、羽化がはじまるという。

せみの羽化の話を知ったことで、生命の不思議さや力強さを感じ取ることができ、せみの生命について考えはじめた。

そして、うっとうしく思っていたせみの声をうれしく思うゆかちゃんの心に共感させ、すべての動植物の生命を大切にしていこうとする心情を育てたい。




②ねらい

自分の命と同じように、他の命あるものを大切にしようとする心情を育てる。

□板書

おとうさんの おはなし

・いままで うるさいって いって ごめんね。
・もつと おおきな こえで ないて いいよ。
・がんばって なつ の あいだ ないて いてね。

せみの こえ

・うるさいなあ
・よけいに あつく なるよ
・なつが きたんだなあ

・おやせみは、木に たまごをうみつけてから しぬ。
・ようちゆうは、七年ぐらい土の 中で いる。
・でて きた ばかりの と きは、はねはくしゃくしゃ。なくまでには、四日も かる。
・ たった 十五日ぐらいしか 生きて いない。

③展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) せみについて知っていることを、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏になると、よく鳴く。 ・せみの抜け殻は、木にくっついている。 ・せみはあまり長生きしない。 <p>(2) 資料「せみの こえ」を読み、ゆかの行動や考えについて話し合う。</p> <p>① 夏になってせみの鳴き声を聞いて、ゆかちゃんは、どんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏だなあ。 ・うるさくっていやになる。 <p>② お父さんの話を聞いて、ゆかちゃんは、どんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せみって、大変なんだなあ。 ・長い間、土の中で暮らし鳴いているのは、少しの間だけなんだなあ。 ・せみは、土の中でも、外に出てからも、一生懸命生きているんだなあ。 <p>③ 次の日、せみの声を聞いて、どんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかり大きな声で鳴いてね。おうえんするよ。 ・せみさん、がんばってね。わたしもがんばるから。 ・今までうるさいなあと思っていてごめんね。せみが鳴いているのは、一生懸命生きているからなんだね。 <p>(3) 自分の身の回りの生命に目を向ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生き物が、一生懸命生きているなあと感じたことはありますか。 ・ツバメの赤ちゃんが大きな口を開けて、エサを欲しがっていた。一生懸命だったよ。 ・お母さんが教えてくれたけど、ホタルもちょっとしか生きられないんだって。おしりをピカピカ光らせていたよ。 ・僕の妹は、お腹がすいたらわんわん泣くよ。にこにこ笑うこともあるよ。ちっちゃいけど、元気だよ。 <p>(4) ビデオを見て、本時のまとめとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ せみについて知っていることを発表することで、ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。 ・ 主人公のゆかちゃんの気持ちの変化に焦点をあてるようにする。 ・ せみの声をテープで流し、せみの声を迷惑に思う、ゆかちゃんの気持ちに共感できるようにする。 ・ せみの一生について不思議に思ったことや、身近な生き物なのに知らなかったことが分かることで、生命に対するすばらしさを十分考えることができるようにする。 ・ ゆかちゃんの気持ちを考える手がかりとして、お父さんのせみについての話をキーワードにし提示することにより、生命を大事にすることの大切さに気付くゆかちゃんの気持ちを深く考えることができるようにする。 ・ 心のノートの写真を提示し、人間も含め、生きている全てに一つずつ、かけがえのない生命があり、一生懸命生きていることに気付くことができるようにする。 (心のノート P56・57) ・ 生き物の生き生きとした生命の営みが分かる映像を紹介し、自分の命と同じように、他の命も大切にしようとする心情を育てるようにする。